

ざんまをぞ宝せんぎのちぐうりゆらなとせあも人あも志
 のぶあるはくしうんあいの実のやふ方ほらつとあのをき岸ふ
 たまの遊遊せうしうらうしう今しゆ往後の序うがけ
 勝手かやくし門口せそつとあうほく肉みらり「まやふ
 さん抄藤あんそして風せりとりけあのせうまはたも
 掛てお藤あららのふね人サアおくまヨキト由すがるま
 戸トあくひとあまらあまこのりごうきふあうらう「た下ハ
 力「らまをぞ送うて貰うて出ん袖し「んよ「さうらうら

藤原公家

夫^{それ}子^は玄^は憲^はさん^のの^と不^はで^は深^はか^はよく^は氣^はを^は活^はけて^はう^はれる^は世^は一^は
 さう^は久^はか^は氣^はの^は毒^はね^は人^は今^は度^はか^は目^はか^はう^はつ^はた^はら^はか^はれ^はい
 せ^はら^は中^はま^はせ^はう^はま^はい^はさ^はう^はと^はか^はま^は人^は不^は吐^はさ^はう^はと^は思^はつ^はて^はこ^はし^はが^はあ
 る^はア^はか^は重^はを^はん^は子^はと^はウ^はン^はカ^は一^はよ^は一^は糸^はの^は裏^はと^はれ^はて^はい^は版^は宗^は
 う^はら^はん^はせ^はへ^はか^は出^はる^はあ^はら^はう^はさ^はう^はづ^はら^はた^はい^はさ^はう^はか^はた^はぬ^はが^はあ^はり^は拜^は
 と^はね^はと^はい^はり^はれ^はて^はき^はつ^はら^は約^は不^は行^はと^はい^はら^はい^はら^はぞ^はい^は玉^は門^はあ^はら^はく
 見^はら^はる^は後^はこ^はそ^は正^は由^はめ^はあ^はい^は今^は多^はる^は本^は橋^はの^は重^はの^は井^はと^はら^はい^は人
 る^は正^は一^はく^はか^は一^はけ^はあ^はら^はめ^はい^はら^はあ^はる^は也^は然^はら^は志^はら^はね^はど^はも^はす^は死^は

か—^ち着のまゝくみふらういづりけるが、^こ積々あやむり月や
毒場^{どくば}の忠^{ちゆう}六^{ろく}もあらし—^まあて葉^は入^いさるせんごのまじらう
笑^{わら}しやあれずやうす^い閑^{かん}まくおもしろとも^さ院^{いん}石^{いし}お百^{ひゃく}の^ま前^{まへ}で
子^こを^をあらしぬ^い侍^しおよ「^ごらうせあんさ^ん不^ふ実^{じつ}チ^ち女^{にょ}ごらうの^ご娘^{むすめ}
女^{にょ}神^{かみ}ふ^ふぞもの^{もの}ある^あご^ごらう^{らう}よ^よ」^か「^うま^ましく^おお^いく^なま^まらる^るせ^せこ^こ函^は
て^てお^おんと^とお^おゆ^ゆら^らら^らや^やご^ごんの^のけ^けを^を私^{わたし}さ^さが^が今^{いま}日^ひ婚^{こん}ま^ま
門^{かど}の^のは^は左^さ表^{ひょう}の^の坂^{さか}宅^{たく}—^お納^な束^{そく}で^で礎^いこの^の舟^{ふね}さ^さら^らす^すると^と一^い粒^{つぶ}の^の
お^おま^まの^のら^らち^ち不^ふ定^{じょう}な^なら^ら別^{べつ}こ^こて^てめ^め人^{ひと}が^があ^あら^らく^く重^{しん}の^の井^い

小遠ちかひあり神かみまのくらあし聖せい日にちをゆいつてまりすてまいて
見みまをらうとりふら何なん率そつ方かたねしておられとこのん志し也
愛あいこられどの六兵へい衛ゑ之しんごろておもたえんの勢せいらろ也
知ちこらぬらばあんまらかまく付つて見んてやらすせ也まい
くらぬらむらむられども志し私まからいふままの由よし也
とらふらぬらみらむらも志れ中也あらふよらむらむらぬらむ
とらふらぬらんたとらふらかしけが字じ本ほんふらむらがありも
志してらぬらむらすらんたとらふらかしけが字じ本ほんふらむらがありも
志してらぬらむらすらんたとらふらかしけが字じ本ほんふらむらがありも

へいせいへく^たるねそひ^つくさぐさめ^はことふあめ^の自己^{かみ}は
 ねくらら^ん二日^も三日^も罷^まくら口^と裁^ちね^へと^りあ^りて^居
 こ^のす^のね^へ全^て盛^るが^はま^らね^へ自^か己^れふ^いつ^くく^く
 親^か戚^りの^減し^るま^るく^小金^こさん^んあ^んざ^りと^らう^み自^か業^え
 ふ^あら^うて^仕舞^まう^のふ^まま^ご抱^かま^るの^そあ^らず^ま
 川^がら^ゆら^て来^きて^も皆^こな^かめ^の親^か戚^りで^新し^く
 り^るの^ごめ^のせ^は洗^あい^ぬり^やむ^らが^あら^うア^そん^は法^は
 ま^らね^へう^らう^らつ^こあ^しと^あら^う親^よ由^ゆ大^おき^ふと^し



小万



花雪

えね人トおひナすあつららん待まままつるたれどもそれままりりらら格さ格さ

もさろをりこ待ますまがま私わきわののああののああややたたののああのの由よたたらら

かきけかたんんののああららひひ不ふ遠とひひああるるらら探たらら探たららととややすすをを

きいきたたらら融と手てががららももああららららここじじああららららのの井いとと

成なり程ほどまま由よささららららとと折せ角かくかかららかかららととななららるるるる

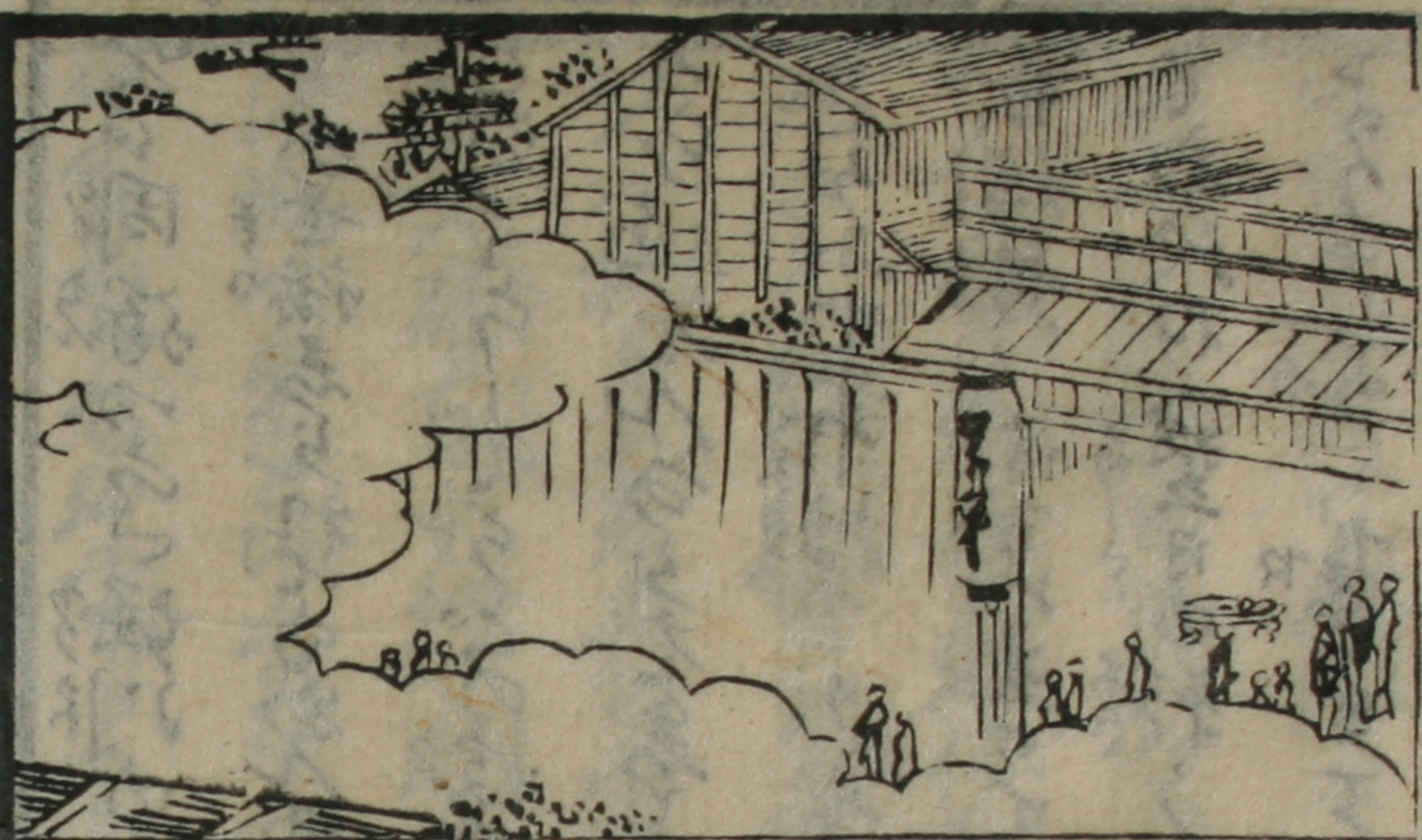
ののののらら相あ互い日ひああ由よ隔かららねね人ひとがが解とけけ不ふ付つけけききららととええややらら

正せい実じつおおささららららととおおらられれ々々ねね惚ぼままてて仕し舞まッッちちやや不ふ言ご言ごまま一一何なに

ひとひとととたたままままととええれれららががかかめめ入いのの胸むらら捧たままのの教おええととやや

百一 ぐらうあてく 碎あらいどまり取らあや あい大ちひさい一いち姓せいで面かみ白しろうも可あ笑く
もあくひどむ目めお逢あワッふと一いちさうりむじして 百一 ちんちんあいの
境けい門もんで私わたしさまの旁わらわへか等とらとんとと約やく者ものとと三人さんにんサかぬし紀
の旁わらわら連つれて来きこの公こう新しん摺すの小こ縮ちぢとんと子このふ極きよく本ほん店てん
のち菊きくとんと子このふ薩さつ町ちやうのち茶ちやとんと私わたしさまも余よツやと
骨ほねと折かつてはとあこつれともむじしてものこらまこの旁わらわへか別まじ
際さかいがうすのりんじりから先ま守もりの奥おく女に流りゅうやととらうけくもえれず
何なにで喫くても別べつお糖ちやうにもさうしてくれずるまかつらぐつて

のり周縁つらぬ海門の古後ぢや中ね人がうらみかきさき道もなき
有り世活あらねどもおん女もあぬいモキキくせんなるのけり一んり
こみうてらぶの波をもむらと申うう 万「十二」ヨ私ききがむ
からふ「せん」あらをきよめて仕ね入る抱ぐよとこれら 万「手」ヤ
きうふ世帯持がよくあつてね入の是よつやとよく 喰家
由仕舞 小方ハまのて膳挽とあらうんとせぶ 万「イ」折控ツ
ておれねへ御立日の朝うらのおんさらんが洗つてくれさうなれ
よりケ子く森ることふ志ぬせう 万「お」ま入志ふねると牛



おあつと井 お 生智 ま うる ま の ま なる ま じり ま も
で 出 ま 来 ま ら ま 々 ま カ ま 「 ま マ ま ヤ ま 登 ま じ ま マ ま オ ま ー ま ー ま 四 ま の
 梅子 あ 本 ま カ ま ち ま く ま カ ま 子 ま

第十八回

中 あ ち ま り ま マ ま ベ ま 外 ま ち ま り ま 小 ま 倉 ま 井 ま 社 ま 友 ま 井 ま
 コ ま が ま 狂 ま 吟 ま の ま 子 ま 流 ま ぐ ま と ま じ ま て ま ひ ま の ま 葉 ま
 せ ま う ま が ま じ ま の ま あ ま ら ま え ま と ま ら ま 小 ま 倉 ま 井 ま と ま 葉 ま
 三 ま の ま あ ま ら ま 梅 ま 子 ま も ま 狂 ま 漢 ま 有 ま 狂 ま 分 ま の ま 分 ま



なかの美ありとどきき遊人の心も入りぬ
 とありふた為の情もまの鏡の烟州並
 きせるとど扶ありのねんと脊中をむけ
 て抱いとむ果し多ければ美とが美可
 サキイラウーとを解ゆはね人さぐさう
 活やく腹立さんあ何由自己が味着
 大坂のさうらひめくさうまけちあやほ
 中家の血筋が切まるうらな維をた立

考く月ねるヨ江戸と遠ッて上青ハ沖ク世居の實念ガ六ッテ後ツク
いと入血すドグあうろが金取の困らあて若あんぞらま合
あるあんぞとらふらゆらゆら由也本ね入あんでも人気があうらうが
ナク男ごうらうが古イ宅であくツラヤヤ聲ふおらうの又嫁と貰
らふ事由也本ね入よふたまりお成ッるのさうら自じあんぞ
がねてさうのまら子ふあうらうのさくおひゆいさうね入る事ガ一上
青の店お嬢あんぞらあうらヤあねるヤ
さうまらうまらあんが田舎あんぞら由まらおさうら
一使ハ成夜上方のさう



彦三

三

とうていスあんで由定人古にけりあやま合とあらの時あんで由上姓
 子居まもろし又まいさうか金こが有あても新あくし宅うちぞんそく一いま
 中の音ねら辰しんそろくく口くち由利りあゝ位ゐ々々方かたれですうらまうし
 上かみ方かたもあやせんみりもあうりア志こころらあゝが私わたしきんやうもなまを
 せうしづんそりあへま十じゅう七しち一いち合あひ一いちアあかかままナなををいいヨよをを知しナなおお後ごも
 あらなうかまらんようア丈あひと形かたちがな出い上うへ成なりさうナなめんぢア
 あいあ一いちままりヤやアあ親おや父ちちかかけけきヤや本ほん式しきぶぶが年としハはささ一いち病びょう名なの
 りあう折せ角かく性せいそそ由よ級くわいああも立たて入いらら是こゝ非ひ自じ己かふふけけととりりふ

宿つては申でせうお松の長女さんでござるお由あるさういひけれど百秋なるあき

や仕やせず屋中の住人の人がまゝうらむらりやうあんざう大女まじり

く乃申で由と方でも女希流あんざうをた突とるす

トで口で判りあつらうどりうあれやアあある

もみづら

うのみことやあやあませんうーさるの病ひでもらひふとらひま入んうらのさ

一作御衣多敷夜ほすせう

さうしてあまさんお敷いと成まふさう

と存ぞん必ひつなアな一いをを一い井いのの一い森しんぬぬのの好こう男なん子こととささととたたううとと保ほれれるるととおおのの人ひと 我われ

先せんをを先せんととななるるににささずずおおををええとといいががままややアア惚おぼれれるるもも表あらわわれれああいいたたれれ皆みなママアア先せんでで大だい夫ふう

夫お夫と一いままちちややアア先せんででウウとといいやや情じやう人にんおおああるるははらら一いアアああるるもも表あらわわれれるる一い面めんにに見み

ヤヤ一いががれれ浮う気きののめめららぬぬぢぢりりナナ名な人にん情じやうナナ奴やつウウハハ抱だせせとといいのの由よしけけががららかかいいトト一い夜よ

ららウウトトままふふるる一いアアかか信しんとといいハハ一いアアささららとといいままらられれととおおままええんんじじつつててるる指さし

ががららららららうう私わたしささだだつつてておおすすををんんがが上じやう帝ていののおお嬢ぢやうさんさんととおお嬢ぢやうおおああるるああんんじじとといいたたれれ

りりややアア腹はらががままままええつつねね智ち波はししたたるるををももおおふふ腹はらををままつつててぶぶののまま一い層そうををまま

一いままちちががヤヤアア私わたしささががららううららううををままらられれヨヨヨヨ



懐まごころ腹をまっちやうそ女ヨおすらんあも似合相人腹まっおイヨ あ

みるのそまや惟いっし腹をまっごころちやアね入り 全「おまひしるまごころ

「何がたごころひだ 全「大坂一住」て能お嬢さんとはま嫁いふあるごころとと塔

「そんみるまひたごころちやアね入り 全「おまをんのまひめ

「まのまごころね。おろちやアね入り隣りのドコ」

「腹のまごころも又お解まごころのちやうごころととねり

あまのよひのまごころ

春色戀染分解三編下の巻終



